

平成 31 年度使用小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）
の採択結果等について

採択地区名 安芸郡教科用図書採択地区

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	東書	日常生活や他の教科等の学習につながるよう多様な資料（図、グラフ、写真等）と文章とを関連づけて考えさせたり表現させたりする学習が多く掲載されている。また、巻頭の「国語の学習を進めよう」では、「つかむ」「取り組む」「ふり返る」「広げる」という学習過程が示されており、課題解決的に国語の学習が進められるような工夫がなされている。
書 写	東書	「調べよう」「確かめよう」「広げよう」という構成となっていることや、既習事項との関連が分かるような工夫があることにより、児童が主体的に学習しながら、書写の基礎・基本の力を育成することができる。また、「生活に広げよう」が高学年に掲載されており、国語科の学習や他教科との関連を図り、習得した書写力を児童の学校生活や日常生活に活用できる工夫がなされている。
社 会	日文	単元のはじめに「学習のまど」でねらいを示すとともに、毎時間、児童の言葉で学習課題が設定してあり、主体的に学習できるよう工夫されている。また、「この教科書のしくみ」として、教科書を効果的に活用した対話的な活動により学習を深める手立てが示されている。さらに、単元の終わりに「ふりかえってみよう」が設定されており、言語活動を通して、学習内容の定着を図ったり、思考力・判断力・表現力を高めたりすることができる。
地 図	帝国	方位・距離と縮尺や土地の高さ、地図の記号などがわかりやすく整理されている。様々な種類の写真や図等を用いて地形や位置のイメージをもちやすく地図の成り立ちが示されており、地図への興味関心を高められる。世界地図では地球儀の図を合わせて掲載し、全体の中の位置をつかむことができる。防災マップづくりの手順が示されるなど、社会科の学習と地図を結び付け、効果的に活用することにより、学びを深められる。
算 数	東書	単元の始めに課題意識をもたせ、児童が主体的に考え他者に伝える学習活動を通して、思考力や表現力を高めることができるような構成になっている。また、測定や作図において的確に理解が図れるような写真・さし絵の配列となっている。さらに、日々の授業において自分や他者の考え、感想等を表現させるノート指導例を活用することで、より充実した言語活動が展開できる。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
理 科	東書	<p>問題解決の過程を明確にし、問題の前に課題意識をもたせる工夫があることで、児童が見通しをもって観察実験等を行うことができ、主体的に学習に取り組める構成となっている。また、習得すべき知識・技能が確認できる自己チェック欄が設けてあることや、単元末には、活用を意識した問題が設定されており、思考力・表現力の育成に適している。さらに、「ノートの手書き方」の例示が学年に応じて示してあることで、自分の考え等を分かりやすく書く手立てとなっている。</p>
生 活	東書	<p>多様な学習の活動例が写真等で掲載され、児童の気づきを促し、主体的な学びにつなげる手立てがある。また、学校生活や生活科の学習について時系列で写真により紹介する幼保小の連携を意識した「すたあとぶっく」、児童の実態に応じたワークシートの記述例など、入門期の学習がスムーズに行われるような工夫がなされている。</p>
音 楽	教芸	<p>学習の目標が明確に示されており、児童が目的意識をもって学習活動に取り組むことができる。また、器楽（リコーダー）の扱いでは、スモールステップで基礎・基本の定着を図ることができるような工夫がなされている。さらに、合奏曲、合唱曲の配列も発達段階に即している。</p>
図画工作	日文	<p>全学年に吹き出しで活動のヒントを出すキャラクターが設定されていることと、巻末に設けられた「使ってみよう材料と用具」のコーナーが、必要に応じて切り取って活用できるなど、児童が主体的に学習に取り組める工夫がある。また、表情豊かな児童の写真が多く掲載してあり、興味・関心をもつことができる構成となっている。各題材ページに、用具の安全な取り扱いを適宜示すことにより、安全に留意することができるようになっている。</p>
家 庭	東書	<p>2年間を通して、全題材が3つの小題材から設定されており、目標の示し方が統一されている。目標や小題材でのつきたい力を明確に示し、振り返りで確認させるとともに、巻末に「いつも確かめよう」というページを設け、繰り返し確認できるものとなっている。学習上参考となる資料等の内容が具体的で分かりやすく、主体的で安全に取り組むことができる。</p>
保 健	学研	<p>身近な健康・安全に関する課題を自分のこととして捉え、主体的に思考させるために、日常生活と関連した写真・さし絵やグラフなど分かりやすい資料を取り上げている。学習の流れが、実生活と関連付けて理解できるように仕組みであり、学習の振り返りにおいて自分の生活を見つめ、学びを生かして考えたことが今後の生活に役立てられるよう工夫されている。</p>